

地域の米作り「総合」で学ぶ

愛知・岡崎市立六ツ美南部小学校 ①

田植えや稲刈り、祭り参加

実体験通じ伝統受け継ぐ

本年度で創立14周年を迎えた愛知県岡崎市立六ツ美南部小学校（岩瀬章弥校長、児童659人）。学区は東西に広がり、中心部には東海道新幹線が通っているのが大きな特徴だ。地域と固い絆で結ばれている同校の取り組みについて①②で取り上げる。今回は、地域に根付く「六ツ美悠紀齋田お田植えまつり」と関連付けた総合的な学習の時間の取り組みを中心に紹介する。



6月に実施された「六ツ美悠紀齋田お田植えまつり」に参加した子どもたち

学区に多くの田んぼが広 協力の下、5・6年生は総 がる同校。地域の人たちの 合的な学習の時間で「米作

り」に力を入れて取り組ん でいる。

子どもも主体の授業展開

例えば、5年生では、地 域で田植え体験を終えた 後、成育の観察、米の種 類の調査、稲刈りなどを 行っている。SDGsや各教科 等との関連を図り、実体験 を基に学びの充実へとつな げている。

6年生では、地域が有名 な米どころになった背景や

長い歴史を持つ「六ツ美 悠紀齋田お田植えまつり」。 近年はコロナ禍で中止が続 いていたが、本年度は6月 月上旬に実施した。この祭り が始まったのは、大正天皇 が即位した後の大嘗祭で、 儀式に用いる新米を収穫す る齋田が岡崎市から選ばれ たことがきっかけ。市の無 形民俗文化財にも選ばれて いる。

例年と同じく、本年度も 「お田植え歌」や「お田植 え踊り」などが行われた。 秋になると植えた米を収穫 するため、参加した児童は 再び悠紀齋田を訪れる。収 穫した米は自宅に持ち帰 り、家で味わえるようにす る予定だ。卒業後、「六ツ 美悠紀齋田お田植えまつ り」と関わりを持ち続けて いる家庭もあるという。

意識が欠かせない。岩瀬校 長も、「子どもの感じたこ とに寄り添い、目的意識を 持って授業を進めてほし い」とアドバイスしている という。他にも、学び

「この祭りに参加して勉強 できることを楽しみにして いる児童も少なくない」と 話す。

「かるた」で慣れ親しむ

こうした学校の取り組み 月にはカルタ大会を実施。低 学年は字面で慣れ親し ぶ「六ツ美かるた」を反映した 「六ツ美かるた」写真展は、 同校の特色の一つにな っている。卒業生平成22 年度が作成したもので、全 校児童に配布されている。 コロナ禍よりは前、毎年1



六ツ美かるた 六ツ美南部小 4・43・2105

出典：日本教育新聞

＜小学校・実践より＞

令和4年8月22日掲載

※記事、画像等の無断転載を 固くお断りします。